

高校生活で養う課題意識・コミュニケーション力 これからの推薦・AO入試指導

2020年の大学入試改革においては、学力試験以外に「学力の3要素」を問う内容として今まで実施されてきた推薦・AO入試の試験方式が多く採用されると言われています。推薦・AO入試対策指導でよく出る質問、そして今後改革される大学入試対策として出てくる質問について、藤岡氏が答えていきます。

Question

生徒の志望理由書を書かせようとしましたが、生徒自身の志望学部・学科や大学がみつからない、固まらない、定まらない、の3ないで困っています。【大学選び編】

今回は学部学科選びについて、難

しさの原因を考えることから始めました。対策としては「高校の学びから大学の学びに転換する」「テーマを深掘りして焦点化する」「学問についての理解を深める」の3点でした。今回は、大学選びについてお答えします。

選ぶ、という行為は「選択肢」と「選択軸」からなります。志望校を選ぶとき、どのような観点で大学を見て、多数ある中から、行きたい大学になりうる選択肢を挙げるのか。そして生徒なりの選択軸（選択基準・判断基準）をどのように形作るのか、がポイントになります。

私は4月から大学の教員になりましたが、大学内部からの「このような観点で大学を見てほしい」という願いも込めて大学の選び方を一部、お伝えできればと思います。まずは大学を知るためのヒントを、そして選択軸を作っていく際の3つの観点についてお話ししましょう。

「大学」を知るためのヒント

生徒たちが知っている大学名が限られてはいませんか。卒業生が行った、近くにある、保護者が知っている…。

今までは良かったかもしれませんが、大学や学部の新設が増えるなど急激に変化する中では、先生方だけで情報を収集し、伝えるのは困難です。生徒が自ら選択肢を広げるために、どんな手立てが考えられるでしょうか。

① 意見番教授から大学を知る

新聞やテレビ、インターネットも含めて、ご意見番としてメディアに登場する大学の教授がいます。時事問題などに関して客観的、専門的な視点を盛り込むためにいる人たちです。生徒には面白い！と思ったことを言う教授がいたら大学でどんな講座をもっているのか調べ、さらには著作や論文も読むよう勧めています。

② 自治体の市民講座から知る

自治体が行政サービスの一環として、大学と連携した市民向け講座を開催している場合があります。高校生でも十分理解できる内容であることが多いです。気になる講座タイトルが学問や大学への入り口になるように、リーフレットを見ることや参加することを勧めてはいかがでしょうか。

③ 地域連携している大学を入り口に

自治体と協定を結び、地域の課題解決や付加価値創造に向けて活動する大学が増えています。高校生が参加できるワークショップを開催していることもあります。生徒が住む地域の課題に取り組んでいる大学であれば、興味をもちやすいかもしれません。役場の総務課、総合政策課、企画財政課、地方創生課などまちづくりに関する部署に問い合わせ、生徒が参加できる機会を探ってみてはいかがでしょうか。オープンキャンパスなどは違う切り口で大学に触れることができます。

大学を選ぶ観点 ①

学びたいテーマを研究するゼミ 研究会があるか、教員がいるか

大学の売りの一つに、教員がいます。大学は研究教育機関ですから当然ながら教員の質は力を入れる部分です。大学側は、大学や学部の方針に沿って今後力を入れていきたい分野の良い教員を常に求めています。大学の教員も常に良い研究・教育環境や待遇の良い大学に移っていきま。良い教員を揃えることが大学の教育の質に関わってきます。

大学を見る際には、学部学科の全体像だけでなく、ゼミや研究内容、ゼミ生の卒論テーマなど、個別の教員の情報も確認させましょう。WEBサイトでもある程度の情報は掲載されています。

教員はそれぞれの専門分野や興味分野があり、それぞれの研究テーマをもってゼミや研究会を開いています。研究テーマはゼミや研究会のシラ

バスに記述してありますので、生徒自身の興味範囲に即している、もしくは近ければ大学の志望校にしても問題ないでしょう。

大学を選ぶ観点 ②

AP・DP・CPPの3つの指標を チェックする

大学ではそれぞれの学部でAP=Admission policy(求める学生像)、DP=Diploma policy(卒業までに身につける力を示した学位授与方針)、CP=Curriculum policy(教育目標やディプロマ・ポリシー等を達成するために必要な教育課程の編成や授業科目の内容および教育方法について基本的な考え方を)を定めています。この指標は大学ごとに教員によって考えられています。つまり大学がどのような学生に入学してもらいたい、どのようなカリキュラムを通じて、どのような力を卒業までに身につけるのか、その力がどのような分野に活かされるかについてのストーリーがわかります。

AP・DP・CPPに共感できるかどうかは大きなポイントです。大学選びの際には必ず読ませるようにしたものです。逆に、3つの指標がしっかりしていない、読んでもわからない場合は、慎重に調べた方が良いでしょう。

大学を選ぶ観点 ③

初年次教育が 充実しているかどうか

初年次教育とは、大学1年生向けに課す教育プログラムを指します。初年次教育と言っても多様な内容があります。私が考える充実した初年次教育とは、「高校と大学からの学びの転換を促す教育」です。前回、このコーナーでも挙げましたが、高校までの学びと大学からの学びは大きく異なります。大学からの学びを身につけて大学に入学する高校生は一握りだと考えています。

高校を卒業したばかりの大学1年生たちに大学の学びへの橋渡しがなければ、大学特有の教育環境も無駄に終わります。よって初年次教育に力を入れている大学は教育に力を入れている親切な大学だと思って良いでしょう。

高校生にはオープンキャンパスでの非日常的な雰囲気や大学像、模擬講義に引張られ過ぎることがないように注意しています。そして生徒自らが大学で学びたいことを明確にしたうえで、学ぶ環境として最適かどうかを同じ、もしくは近い研究テーマの教員がいるかどうか、大学や各学部が考えるAP・DP・CPPに共感できるか、大学での学びを最大化する初年次教育の充実度合いを踏まえて大学を考えましょう。

Answer

藤岡慎二
北陸大学教授
株式会社
Prima pinguino
代表取締役



ふじおか・しんじ●1975年生まれ慶應義塾大学大学院修了。数学や生物の大学受験対策を教える塾講師を経て、大学院でキャリア教育の重要性に気付き、研究を開始。小学生から社会人までを対象とした現場指導経験を有し、推薦・AO入試対策、社会人基礎力の指導や教材・プログラム開発を大手大学受験予備校や高校・大学で行う。島根県立隠岐島前高校をはじめとし、行政と協業し教育を通じた地方創生に取り組み、現在、北海道から沖縄までの高校魅力化プロジェクトに参画、高校連携型の公営塾を運営。